

訪問滞在型研究・プロジェクト研究題目一覧

| | |
|--------------|---|
| 1991(平成3)年度 | 「無限自由度の数学解析」 |
| 1992(平成4)年度 | 「非線型現象の解明と応用」 |
| 1993(平成5)年度 | 「モジュライ空間、ガロア表現及びL関数」 |
| 1994(平成6)年度 | 「代数的組合せ論の研究—他分野との関連性を主題として」 |
| 1995(平成7)年度 | 「BRS対称性」 |
| 1996(平成8)年度 | 「高次元代数多様体」 |
| 1997(平成9)年度 | 「等質空間上の解析とLie群の表現」 |
| 1998(平成10)年度 | 「表現論における組合せ論的方法及び関連する組合せ論」 |
| 1999(平成11)年度 | 「弦理論にかかわる幾何学」 |
| 2000(平成12)年度 | 「反応拡散系：理論と応用」 |
| 2001(平成13)年度 | 「21世紀の低次元トポロジー」 |
| 2002(平成14)年度 | 「確率解析とその周辺」 |
| 2003(平成15)年度 | 「複素力学系」 |
| 2004(平成16)年度 | 「代数解析的方法による可積分系の研究」 |
| 2005(平成17)年度 | 「Navier-Stokes方程式の数値とその応用」 |
| 2006(平成18)年度 | 「数論的代数幾何学の研究」 「グレブナー基底の理論的有効性と実践的有効性」 |
| 2007(平成19)年度 | 「ミラー対称性と位相的場の理論」 |
| 2008(平成20)年度 | 「離散構造とアルゴリズム」 「On the Resolution of Singularities」 |
| 2009(平成21)年度 | 「数理ファイナンス」 「非線形分散型偏微分方程式の定性的研究」 |
| 2010(平成22)年度 | 「数論における諸関数とその確率論的側面」 「変形量子化と非可換幾何学の新展開へむけて」 |
| 2011(平成23)年度 | 「作用素環とその応用」 「極小モデルと端射線」 |
| 2012(平成24)年度 | 「離散幾何解析」 「高精度数値計算法の先端的応用」 |
| 2013(平成25)年度 | 「モジュライ理論」 「大規模流動現象の流体力学」 「力学系：理論と応用の新展開」 |
| 2014(平成26)年度 | 「数学と材料科学の新たな融合研究を目指して」 「幾何学的表現論の研究」 |
| 2015(平成27)年度 | 「確率解析」 「理論計算機科学の新展開」 |
| 2016(平成28)年度 | 「壁近傍乱流の流体力学」 「グレブナー基底の展望」 「微分幾何学と幾何解析」 |
| 2017(平成29)年度 | 「量子力学の数理解析およびその周辺の話題」 |
| 2018(平成30)年度 | 「頂点作用素代数と対称性」 |
| 2019(平成31)年度 | 「団代数」 「離散最適化とその周辺」 |
| 2020(令和2)年度 | 「宇宙際タイヒミュラー理論の拓がり」(2021年度に延期) 「微分幾何と可積分系—対称性と安定性・モジュライの数理—」 (2021年度に延期) |

- 2021(令和3)年度 「Mathematical Biofluid Mechanics」
「作用素環論とその応用」
「宇宙際タイヒミュラー理論の拡がり」
「微分幾何と可積分系—対称性と安定性・モジュライの数理—」
- 2022(令和4)年度 「変分問題の深化と応用」
「特異点論特別月間」
- 2023(令和5)年度 「確率過程とその周辺」
- 2024(令和6)年度 「可積分系・数理物理学に関わる代数幾何学の発展」
- 2025(令和7)年度 「数理最適化における理論研究の新展開」
- 2026(令和8)年度 「HIGHER STRUCTURES IN GEOMETRY AND MATHEMATICAL PHYSICS」
「The Mathematical Roads to Quantum Field Theory.」
- 2027(令和9)年度 「Arithmetic, Homotopy, and Geometry 」
「Recent Developments in Fluid Mechanics PDEs」

※2018年度、国際共同利用・共同研究拠点認定に伴い「プロジェクト研究」は「訪問滞在型研究」に発展拡大した。